



vol.42



メグロアソビ冒険隊

さわむらさち こ
澤村幸子 さん
プロフィール
(写真左)

千葉県松戸市出身。大学で視覚伝達デザインを学ぶ。デザイン事務所で勤務した後、フリーランスへ転向。印刷物・ウェブデザインなどを手がける。

なかむらりょうこ
中村良子 さん
プロフィール
(写真中)

目黒区出身。イベントプロモーション会社勤務。目黒区美術館ワークショップに参加し、コミュニケーションを通じたチームでの作品制作の面白さを知る。

やまもともも こ
山本桃子 さん
プロフィール
(写真右)

目黒区出身。美術大学卒業後は都内文具メーカーにデザイナーとして勤務。子どもの頃からワークショップに通い、参加者からスタッフになる。

楽しそう！みんなでやってみよう！がモットー

「自分が子どもの頃に参加して楽しかった思い出を、次の世代の子どもたちにも共有したいと思ったのが発足のきっかけです」。そう話すのは、子どもたちへ楽しさを共有するワークショップを企画する任意団体・メグロアソビ冒険隊の山本さん。同団体は、1980年代から続く目黒区美術館のワークショップを契機に2016年に誕生。以来、目黒区美術館や近隣の小学校、企業などで、子どもがアートと能動的に関われるような場を提供しています。

現在の運営メンバーは、ワークショップ参加者だった中村さんと山本さん、学生時代にワークショップ運営に携わった澤村さんの3人。「3人とも、ワークショップが楽しかった思い出が共通しており、今度は私たちが楽しいことを提案する側になれるといいなと思ったのが結成の動機になりました」と話す中村さん。

子どもたちの“はじめの一歩”を後押ししたい

2024年グッドデザイン賞・2024年キッズデザイン賞を受賞した彼女たちのワークショップはとにかくユニーク。顔を真っ白に塗り、もう1人の自分に変身したり、スポンジの端材を用いて彫刻を作ったりと、自宅や学校などでは体験できないような内容になっている。その着想の原点は、3人が楽しい・面白いと思えるかの主観を大切にしていると話す。「参加者が面白いと思えるか。遊んでいる子どもたちを見た周りの人が面白いがるものではなく、体験した本人自身が楽しいと感じられるかを軸にしています」と中村さん。「普段、できないこと・やったら怒られそうなこともワークショップなら“遊び”として堂々と体験ができる。ほんの少しタブーを超えた遊びができる経験が子どもにも大人にも大事だと思います」と澤村さんが続け、「こんなことやっていると」という“はじめの一歩”を見る瞬間が好きだと話してくださいました。

全てを「あそび」と捉えて冒険
子どもたちの前向きな挑戦を
共に楽しむ存在であり続けたい

「これが好き、嫌い、楽しい、楽しくない」という感覚を大切に

アートを通して子どもたちに感じてほしいことを尋ねると、「正解はないから、どんな変なこと考えてもいいし言ってもいい、作ってもいいんだよっていうことを伝えたいです」と澤村さん。

「言葉にできなくてもいいから、何となく楽しかった、楽しくなかった、とか居心地が良かった、悪かったということ、心の中に持ってくれたらいいかな」と中村さん。

そして山本さんは、「アートと普段の生活の感覚をあえて分けて区切ることはしたくないです。普段の生活の延長にアートがあり、ワークショップで楽しんだ感覚を生かして、日々の生活も楽しんでほしいです。参加したけれど、作っていくうちに嫌になって投げつけて、何も成果物がない時もあります。でも、それで良いと思うんです。その過程で生まれた、自分がどういうものが好きで何が楽しいかという、その感覚を持ち帰ってくれたらうれしいですね」と、子どもたちが自分の感覚と出会うことを、皆さん何より大切に思っていました。

① ②
メグロアソビ冒険隊公式サイト(コード①)、公式Instagram(コード②)



▲顔を真っ白に塗ってもう1人の自分と出会うワークショップ「ニューカオカオ星人」



▲スポンジを使って彫刻を作るワークショップ「モニユメンタル・オリエンタル・ものがたる・あくしでんたる」

© Meguro Museum of Art, Tokyo, photo: Sumiko Okagawa

目黒区美術館
Meguro Museum of Art, Tokyo

中世の華・黄金テンペラ画～石原靖夫の復元模写
チェンニーノ・チェンニーニ「絵画術の書」を巡る旅

金ぱく地の華麗な装飾と天然顔料の色彩が美しいテンペラ画は、中世から伝わる絵画の古典技法です。本展では、1970年代にイタリアに渡り、13～15世紀頃のシエナ派の黄金テンペラを研究した石原靖夫の復元模写を中心に、制作工程、色材、素材などでテンペラ画の技法と魅力に迫ります。

時2月15日(土)～3月23日(日) 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 月曜日。2月24日は開館し、翌日休館

¥一般900(700)円、高校生・大学生・65歳以上700(550)円、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体料金

※障害のあるかたと付き添い者1人は無料

〈区民割引〉区内在住・在勤・在学が分かるものを提示すると団体料金で入場できます(他の割引と併用不可)



石原靖夫 復元模写「シモーネ・マルティニーニ(受胎告知)」1972～78年。卵黄テンペラ、金ぱく・板、226.0×171.0×11.5cm、金沢美術工芸大学蔵(原画=1333年、ウフィツィ美術館蔵) 撮影:歌田真介、1978年



石原靖夫「イタリア・ルネサンス期テンペラ装飾標本」1971年頃。卵黄テンペラ、金ぱく・板、42.5×65.5cm、東京藝術大学蔵

場目黒区美術館(目黒2-4-36 区民センター内、☎3714-1201、FAX3715-9328)